

大阪赤十字病院 アレルギーセンター

センター長ご挨拶

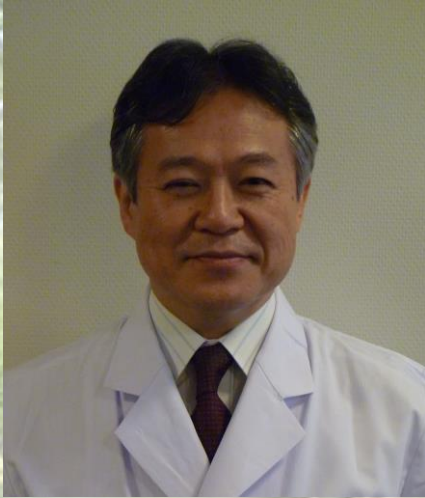
受診・診療の流れ

外来担当表

診療内容と特色

診療スタッフ

センター長ご挨拶



日本人のライフスタイルの欧米化とともにアレルギー疾患が増加してきています。食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、花粉症、アレルギー性結膜炎の6つが、アレルギーの代表的疾患とされています。現在、国民の2人に1人が、これらアレルギー疾患のどれかにかかっており、今や、アレルギー疾患は、日本の国民病と言われるほどになっております。

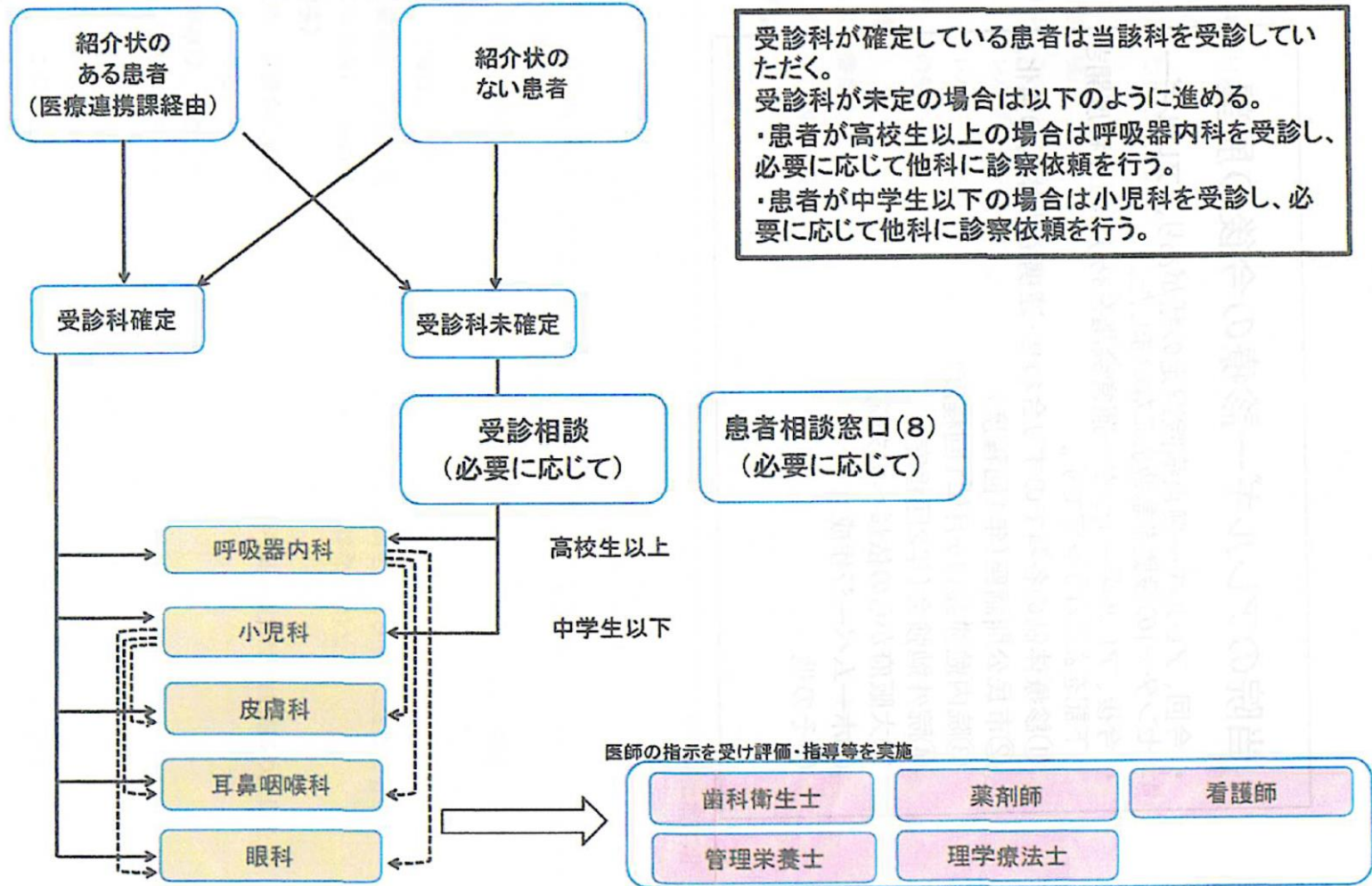
そこで、平成26年に「アレルギー疾患対策基本法」が制定され、平成29年に厚労省から知事に医療体制整備の通知があり、**平成30年6月1日に「大阪府アレルギー疾患医療拠点病院」として、当院を含めた4病院が選定されました。**大阪府のアレルギー医療は、選ばれた4病院を中心に、その他の病院・診療所や薬局等と連携しながら診療、情報提供、人材育成、研究等を行なっていく予定です。

これを機に、当院に「アレルギーセンター」を開設いたしました。上記のアレルギー6疾患は、従来、小児科、呼吸器内科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科で診療されており、また、アナフィラキシーは、救命救急センターで診療されておりました。今般、これら複数の診療科とそれをサポートする多部署で、「アレルギーセンター」を構築いたしました。アレルギー疾患をお持ちの患者さんは、複数の疾患を経年的に発症することも多く、診療科横断的および全病院的体制で、質の高い医療サービスを提供していく所存でございます。**赤ちゃんからお年寄りまで、また全てのアレルギー疾患に対応できるような「アレルギーセンター」を目指して、努力していきたいと考えております。**

今後ともよろしくお願いいたします。

受診・診療の流れ

アレルギーセンターとしての診療の流れ ※現在、紹介状のない初診患者さんは受け入れておりません。



受診科が確定している患者は当該科を受診していただく。
受診科が未定の場合は以下のように進める。
・患者が高校生以上の場合は呼吸器内科を受診し、必要に応じて他科に診察依頼を行う。
・患者が中学生以下の場合は小児科を受診し、必要に応じて他科に診察依頼を行う。

外来担当表

		月	火	水	木	金
小児科	午前 午後	安西	原田	肥田 中道	住本 住本	安西
呼吸器内科	午前 午後	吉村・森田 吉村・森田		森田 森田		吉村 吉村
皮膚科	午前 午後	八木	八木 太田 アトピー性 皮膚炎外来		八木	
耳鼻咽喉科	午前 午後	吉田				吉田
眼科	午前 午後	廣井 廣井	市岡	廣井 廣井	市岡 市岡	市岡 市岡・廣井
歯科口腔外科	午前 午後	正重	正重(初診)	正重		正重

※新型コロナウイルス感染防止対策として全診療科、紹介状のない方の初診は、現在受け入れておりません。

※耳鼻咽喉科の初診については、紹介状と、紹介元(医療機関)からの予約が必要になります。
(詳細については、当院の医療連携課 06-6774-5127 までお問合せ下さい)

※午後は全て予約制です。

症状から探す

ぜんそく・
気道アレルギー

食物・
小児アレルギー

アレルギー性鼻炎
副鼻腔炎

アトピー性皮膚炎
皮膚アレルギー

眼のアレルギー

その他のアレルギー

診療内容と特色

ぜんそく・気道アレルギー

- 1 ぜんそく・COPD教室** →現在、コロナの影響で休止中
日程：毎月第3木曜日
奇数月は薬剤師および吉村医師が薬の副作用、呼吸筋の運動について
偶数月は呼吸器内科医および歯科衛生士による最新の話提供
場所：呼吸器内科外来待合室
時間：15:00～16:00
- 2 舌下免疫療法**
鼻炎合併（スギ花粉症、ダニ感作の通年性アレルギー性鼻炎）喘息への追加治療を当科では行っています。少なくとも6ヶ月以上を目標に3～5年の治療により、これまでの対症療法にはない、根治的に効果が期待できます。
- 3 大阪吸入～多職種連携～の会**
毎年春と秋に吸入療法に携わる医療者向けのロールプレイ参加型の講習会を開催しています。
日程：2021年9月4日（土曜日） 16:00～18:00
2022年2月11日（金曜日）16:00～18:00
場所：ZOOMを用いたオンライン講習会（デバイス体験、ロールプレイあり）

診療内容と特色

食物・小児アレルギー

- 1 日帰り食物経口負荷試験および緩徐経口免疫療法**
週2回9:00～14:00(症状により入院となります)で
日帰り食物経口負荷試験を小児科病棟で行っています。
負荷試験の結果により、経口免疫療法ができない症例もあります。
当院では急速経口免疫療法は行っていません。
- 2 エピペン教室**
毎月第4金曜日に1日4組まで、エピペン保持者に対して
本人とご家族、状況により園・学校関係者を含めて当院で
14:30～16:00にエピペンに関する講義と参加型の実技を行っています。
- 3 食物アレルギー教室**
毎月第2、第4水曜日の13:00～14:00に栄養指導室にて
栄養面を重点的に、小児アレルギーエデュケーターである
堂川管理栄養士が指導を行っています。

診療内容と特色

アレルギー性鼻炎 副鼻腔炎

I. アレルギー性鼻炎

アレルギー性鼻炎はくしゃみ・鼻みず・鼻づまりを主な症状とする疾患です。治療は、①抗原回避、②薬物療法、③手術療法、④アレルゲン免疫療法があります。当院耳鼻咽喉科では薬物療法で制御が困難な重症アレルギー性鼻炎に対する手術療法をおこなっています。特に持続する鼻づまりの緩和を目的としています。

1 鼻中隔矯正術、粘膜下鼻甲介骨切除術

アレルギー性鼻炎に鼻中隔わん曲や下鼻甲介の肥厚を伴う場合は高度な鼻づまりが生じます。内視鏡を併用し、鼻中隔わん曲部や下鼻甲介骨を切除し、鼻腔通気を改善します。入院期間は5-7日間です。

2 後鼻神経切断術

後鼻神経は、くしゃみ・鼻水・はなづまりに関わる神経です。後鼻神経を切断することでそれらの症状を緩和するのが目的です。通常は粘膜下鼻甲介骨切除術に追加して行います。入院期間は5-7日間です。

II. 好酸球性副鼻腔炎

両側鼻腔に鼻茸が多発し、高度の鼻閉や嗅覚障害を来す疾患です。気管支喘息、NSAIDアレルギー、アスピリン不耐症を認めることや好酸球性中耳炎を合併することがあります。治療抵抗性の副鼻腔炎で、平成27年より国の指定難病となりました。診断には鼻腔ファイバースコピー、副鼻腔CT、採血(血中好酸球数)、鼻茸組織検査が必要です。

内視鏡下鼻副鼻腔手術が有効な場合があります。入院期間は5-7日間です。

気管支喘息を合併する場合は、呼吸器内科と協力して診療にあたります。

診療内容と特色

アトピー性皮膚炎 皮膚アレルギー

1 アトピー性皮膚炎、皮膚アレルギーの外来(初診)日について

これら疾患は皮膚科にとって最も一般的な疾患であるため、特別に診療日を設けることはせず、八木洋輔副部長(日本皮膚科学会認定皮膚科専門医)、藤田真文医員(日本皮膚科学会認定皮膚科専門医)、太田深雪(非常勤)医員(日本皮膚科学会認定皮膚科専門医)のいずれかが外来を担当していますので、患者さんの都合のよい日をご指定して、当院医療連携課を通じて、紹介と予約をお取りください。

(月曜日から金曜日の平日のみ:初診受付時間;8:30~11:30)。また、重症のアトピー性皮膚炎の患者さんの再診を対象に、毎週火曜日の午後(14:00~16:00)に「アトピー性皮膚炎外来」を設けています。

接触皮膚炎、金属アレルギー、薬疹などでパッチテスト(貼布試験)を希望される患者さんは、2日後、3日後、および、7日後判定のため再診が必要になるため、月曜日あるいは火曜日の紹介として下さい。なお、重症薬疹などで、プリックテスト、皮内反応、内服テストなどを希望される患者さんは、外来ではなく入院検査となりますので、事前に患者さんにご説明下さい。また、薬剤の準備などのために、当日の入院検査が無理なこともあることをご了承下さい。


2 アトピー性皮膚炎について

アトピー性皮膚炎は、皮膚角層のバリアー障害(皮弱)を持っている患者さんに、また、アレルギーを起こしやすい素因を持っている患者さんに、持続的なアレルゲンの曝露、進入が繰り返されることによって生じる、痒みを伴い慢性的に経過する皮膚炎(湿疹)です。また、皮弱素因とアレルギー素因のバランスは一様ではなく、ほとんど皮弱だけを原因とするアトピー性皮膚炎患者さん、あるいは、ほとんどアレルギー素因だけを原因とするアトピー性皮膚炎患者さんなどもあります。

そのため、単なる皮膚の乾燥さえもその原因になり得るうるため、生後早期より皮膚バリア機能の改善のために保湿治療を開始することは、本症を予防するためにも大切とされています。また、バリアー障害の原因としてフィラグリン遺伝子欠損が有名ですが、それ以外の原因もみつかってきています。

本症の発症原因は、バリアー障害(皮弱)とアレルギー素因であり、その結果として生じた食物アレルギーなどが原因ではありません。したがって、重症の食物アレルギーを生じた患者さんなどでは抗原除去や減感作療法を行うこともありますが、皮膚炎(湿疹)を生じないようあるいは早期に抑えることがアトピー性皮膚炎治療の基本であり、具体的には、保湿剤などで皮膚バリア障害を改善させることとであり、もうひとつはステロイド外用剤などで生じた皮膚炎(湿疹)を抑え悪化させないことです。

以下に、日本皮膚科学会が作成した「アトピー性皮膚炎Q&A」を引用しますので、ご参考にして下さい(<https://www.dermatol.or.jp/qa/qa1/index.html>)。



診療内容と特色

眼のアレルギー


アレルギー性疾患は、目の領域においても増加、低年齢化しており、また全身のアレルギー疾患に伴って難治なものも増えています。

当院眼科では曜日、担当医を決めずにまず第一段階の対応をしております。

通常多くのアレルギー性結膜炎は点眼で治療可能ですので、まずはお近くの眼科を受診していただき、難治の場合にはそれまでの治療経過、薬剤がわかる状態で受診していただくと対応がスムーズとなります。

原因検索として、当院では採血、皮膚反応(パッチテスト:皮膚科と連携)を行っております。

治療としては、抗アレルギー剤による点眼治療で難治なものには免疫抑制剤やステロイド剤の点眼(必要時は内服)、結膜の増殖性変化を伴うもので点眼では不十分な場合は局所の注射や外科的処置も行います。点眼薬剤が原因のものには薬剤の変更・中止、さらに内服・手術などへの切り替えの検討を行います。小児科での検査治療入院など他科との連携も行いますのでご相談ください。



診療内容と特色

その他のアレルギー

アナフィラキシー

アナフィラキシーとは、「アレルギーの等の侵入により、複数臓器に全身性にアレルギー症状が惹起され、生命に危機を与え得る過敏反応」をいいます。救急科での初期対応、またその後の原因アレルギーの検索や慢性管理を皮膚科、小児科、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、眼科が連携して行います。

歯科材料・薬剤アレルギー

口の中に存在する金属をはじめとする歯科材料周辺の治りにくい口内炎や歯科治療後の粘膜のただれ、皮膚の発疹などアレルギーが疑われる場合は皮膚科と歯科口腔外科が協力しアレルギー検査を実施しています。

診療スタッフ

氏名	役職	認定資格
住本 真一	大阪赤十字病院付属大手前整肢学園長 兼 同園医務部長事務取扱 兼 アレルギーセンター長	日本小児科学会認定小児科専門医・責任指導医 日本アレルギー学会専門医・指導医 日本小児科学会代議員 日本アレルギー学会代議員 日本小児アレルギー学会評議員 日本小児臨床アレルギー学会代議員 京都大学医学部臨床教授
八木 洋輔	皮膚科部部长	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医 難病指定医 臨床研修指導医 京都大学医学部臨床准教授 緩和ケア研修会修了
西村 英祥	救急科部長兼救命救急センター長	日本脳神経外科学会専門医 京都大学医学部臨床教授
廣井 佳野	眼科部部长	日本眼科学会眼科専門医・指導医 眼鏡等適合判定医師 眼科PDT講習会受講修了認定医 難病指定医
吉村 千恵	呼吸器内科部副部長	日本内科学会認定内科医・指導医 日本呼吸器学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医 日本アレルギー学会代議員 日本呼吸・ケアリハビリテーション学会代議員 日本呼吸・ケアリハビリテーション学会初級呼吸ケア指導士
森田 恭平	呼吸器内科部医師	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医 日本アレルギー学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 日本呼吸・ケアリハビリテーション学会初級呼吸ケア指導士
安西 香織	小児科部医師	日本小児科学会認定小児科専門医 日本アレルギー学会専門医
吉田 尚生	耳鼻咽喉科・頭頸部外科部医師	日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医
市岡 悠	眼科部医師	日本眼科学会眼科専門医 緩和ケア研修会修了
正重 裕一	歯科口腔外科部副部長	日本口腔外科学会専門医

センタースタッフ

住本 真一	大阪赤十字病院附属大手前整肢学園長 兼 同園医務部長事務取扱 兼 アレルギーセンター長
八木 洋輔	皮膚科部部長
吉村 千恵	呼吸器内科副部長
西村 英祥	救急科部長
廣井 佳野	眼科部長
市岡 悠	眼科部医師
森田 恭平	呼吸器内科部医長
安西 香織	小児科部医長
吉田 尚生	耳鼻咽喉科・頭頸部外科部医長
正重 裕一	歯科口腔外科部副部長
畔柳 弥生	薬剤部薬物療法支援課 治験研究係長
小松 絵美	薬剤部 臨床薬剤課
脇田 知宥	臨床検査科部第一検体検査課臨床検査技師
堂川 冴子	栄養管理課 管理栄養士
小泉 亮平	リハビリテーション科 理学療法士
藤岡 香代子	歯科口腔外科部 歯科衛生士係長
津田 卓也	患者総合支援センター副センター長
浦川 悟	統括管理課長兼医療支援課長
無津呂 昌代	患者総合支援センター付課長